

新規上場申請のための有価証券報告書

(I の部) の訂正報告書

エッジテクノロジー株式会社

【表紙】

【提出書類】	新規上場申請のための有価証券報告書(Ⅰの部)の訂正報告書
【提出先】	株式会社東京証券取引所 代表取締役社長 山道 裕己 殿
【提出日】	2022年1月31日
【会社名】	エッジテクノロジー株式会社
【英訳名】	EDGE Technology Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 住本 幸士
【本店の所在の場所】	東京都千代田区神田須田町一丁目32番地7
【電話番号】	03-6205-7597 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 管理本部長 治田 知明
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区神田須田町一丁目32番地7
【電話番号】	03-6205-7597 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 管理本部長 治田 知明

1 【新規上場申請のための有価証券報告書（Ⅰの部）の訂正報告書の提出理由】

2022年1月14日付をもって提出した新規上場申請のための有価証券報告書（Ⅰの部）の記載事項のうち、「第一部 企業情報 第2 事業の状況 2 事業等のリスク」の記載内容の一部を訂正するため、新規上場申請のための有価証券報告書（Ⅰの部）の訂正報告書を提出するものであります。

2 【訂正事項】

第一部 【企業情報】	1
第2 【事業の状況】	1
2 【事業等のリスク】	1

3 【訂正箇所】

訂正箇所は_____ 罫で示してあります。

第一部 【企業情報】

第2 【事業の状況】

2 【事業等のリスク】

(訂正前)

(省略)

②<株主保護>資金使途について（発生可能性：低、発生時期：短期、影響度：小）

当社の公募増資による資金調達の使途については、今後の事業拡大に向けた人件費や人材採用費等に充当する計画であります。しかしながら、経営環境等の変化に対応するため、調達資金を計画以外の使途に充当する可能性があります。また、当初の計画どおりに資金が使用された場合でも、想定どおりの成果をあげられない可能性があります。

なお、資金使途を変更する場合には、適時適切に開示等を行ってまいります。また、投資効果については継続的に投資効果を測定、改善を行い、想定どおりの成果をあげられるように取り組んでまいります。

(訂正後)

(省略)

②<株主保護>資金使途について（発生可能性：低、発生時期：短期、影響度：小）

当社の公募増資による資金調達の使途については、今後の事業拡大に向けた人件費や人材採用費等に充当する計画であります。しかしながら、経営環境等の変化に対応するため、調達資金を計画以外の使途に充当する可能性があります。また、当初の計画どおりに資金が使用された場合でも、想定どおりの成果をあげられない可能性があります。

なお、資金使途を変更する場合には、適時適切に開示等を行ってまいります。また、投資効果については継続的に投資効果を測定、改善を行い、想定どおりの成果をあげられるように取り組んでまいります。

④<株主保護>当社株式の流動性について（発生可能性：低、発生時期：特定時期なし、影響度：小）

当社の株主構成は、本書提出日現在において当社株式の96.0%を保有する大株主且つ代表取締役社長である住本幸士及び取締役島田雄太、取締役治田知明であり、本公募及び売出しによって当社株式の流動性の確保に努めることとしておりますが、(株)東京証券取引所の定める流通株式比率は新規上場時において25.7%にとどまる見込みです。

今後、何らかの事情により上場時よりも流動性が低下する場合には、当社株式の市場における売買が停滞する可能性があります、それにより当社株式の需給関係にも悪影響を及ぼす可能性があります。

今後は、代表取締役社長住本幸士及び取締役島田雄太、取締役治田知明の一部売出しの検討、当社の事業計画に沿った成長資金の公募増資による調達、ストックオプションの行使による流通株式数の増加分を勘案し、これらを組み合わせることで、流動性の向上を図っていく方針でございます。